

コリンエステラーゼ異常低値を呈した一症例

◎篠田 智美¹⁾、太田 光¹⁾、兼子 徹¹⁾
医療法人社団 慈朋会 澤田病院¹⁾

【はじめに】

コリンエステラーゼ (ChE) は肝臓で合成され、血中に分泌されるため、肝臓での蛋白合成能・実質機能を反映する指標とされている。高値より低値で臨床的意義が高く、有機リン剤中毒、遺伝性欠損症ではほとんど活性が認められず、高度の肝障害ではかなりの低値となる。

今回、ChE が異常低値を呈した一症例を経験したので報告する。

【症例】

73 歳男性。既往歴は脳出血、脳梗塞後遺症、アルツハイマー型認知症。

病棟定期採血時の ChE 値が初検値 6 IU/L、再検値 7 IU/L と異常低値を呈した。測定機器は LABOSPECT006 を使用し、当日のキャリブレーション、コントロール値はともに良好で、反応過程モニターにも異常が認められなかった。至急、主治医に連絡したところ、ChE 値が異常低下する臨床所見は認められないとのことであったため、再採血を依頼した。再採血検体の ChE 値が初検値 69 IU/L、再検値 66 IU/L で反応過程モニターにも異常が認められなかった。

採血時に異常があったのではと考え病棟に問い合わせたところ、採血困難であったため、最初の採血は足の静脈、再採血は腕の正中静脈を使用したとのことであった。最初の採血の際、リバスタッチパッチを貼

付した場所の近くから採血したことが判明した。リバスタッチパッチの使用を中止し 2 日後、ChE を検査したところ、269 IU/L であった。

【考察】

リバスタッチパッチ (リバスタグミン) は ChE を阻害することにより脳内のアセチルコリン量を増加させアルツハイマー型認知症の症状の進行を抑制させる薬剤である。

今回、ChE が異常低値を呈した原因はリバスタッチパッチを貼付した場所の近くから採血したためと考えられる。

検体が異常値を呈した際、測定機器や検査試薬などのテクニカルエラー、コンタミネーションなどのヒューマンエラーをまず疑う。そのどちらでもない場合、パニック値として臨床に検査結果を伝える。検査室では個々の患者の病態を詳細に把握することは困難であり、今回、病棟看護師から採血時の状況を詳細に聞くことができたため、原因の究明につながった。

主治医はもちろん、他の医療スタッフと連携をはかること、チーム医療の大切さを痛感した。

連絡先 058-247-3355